

大規模水田作経営における経営管理領域と経営管理問題

梅 本 雅

(東北農業試験場)

Management Problems in Large Scale Paddy Farming

Masaki UMEMOTO

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

東北稲作の特色として農地貸借の停滞が指摘されることが多い。しかし一方で、まだ点的存在ではあるが、大規模な水田作経営も成立してきている。2年連続米価引下げという現在の厳しい状況下においては、これら経営が今後どれだけ形成、発展し得ていくかが、今日の地域の稲作の維持、展開の鍵を握っている。そして、それら経営の発展条件として経営管理能力が大変重要になってきている。

そこで、本稿では次の2点に課題を限定し考察する。第1は、東北地域における個別拡大型での経営展開(大規模化)が、従来の家族労作経営ではみられなかった新たな管理領域を形成することを明らかにする。第2は、岩手県和賀町における大規模水田作経営の過去3か年の具体的事例をもとに、どのような管理問題が発生し、経営管理が行われているか、そこでの意思決定の特徴を明らかにする。

2 大規模水田作経営における経営管理領域の形成

大規模水田作経営において新たな経営管理領域がいくつある要因により形成されるかを整理すると次のとおりである。

第1は、作付・作業規模の拡大に対する技術的制約である。作業適期幅の存在から作付・作業規模の拡大に伴って適正な作業期間を越える、あるいは早晚限に近づくという問題が生じる。そのため、移植や収穫適期内にいかにして作業を終了するかが重要な管理問題となる。

第2に、作付・作業規模の拡大に伴う圃場分散の発生がある。我が国の零細土地所有という状況の中で土地を集積し、作業受託を拡大していけば、どうしても圃場は分散する。そのために、分散圃場をいかに効率的に作業していくかという作業管理問題や各圃場それぞれの特色、条件に応じた栽培管理、品種配置問題が必然化する。

第3に、米流通体制の変化と品種間価格差の顕在化がある。消費者の良食味米志向や単収増によりもたらされる超過米の発生が自主流通米の必要性を増加させることから、販売戦略としてどの品種をどれだけ作付けるかが重要な課題となるが、これらは作業適期幅の延長や冷害回避等の問題と併せて品種選択を多様化、複雑化する。

第4に、規模拡大に伴う危険の増大、大型化がある。作業単位の拡大からそれに失敗すれば修復が極めて困難とな

るため、事前の慎重な栽培・作業管理が不可欠となる。

第5に、作業受託に対する顧客対応の発生がある。作業受託は、一般に契約が不安定であることや、将来における委託者の自分への農地貸付の期待が受託者にあることなどから、委託者の気持ちを配慮し、その意向にできるだけそのための作業管理を通した顧客対応を必要とさせる。

第6は、規模拡大に伴う転作面積の増大である。水田の規模拡大に伴って転作面積も増加することから特に稲以外の土地利用型作物の定着化が急務となり、転作物の栽培管理や転作田等の土地利用調整問題が発生する。

第7は、大規模化、複合化に伴う労働組織の再編である。そこでは他の経営との連携・共同の検討や雇用労働の導入とそれによる労務管理という管理領域が形成される。

第8は、農地購入や投資のための資金調達に係る問題である。それが大型化、長期化することから、借入金額や償還期間の決定が複雑化し、資金管理問題が発生する。

最後に、目標の多様化、複雑化とそれらの相互矛盾の発生がある。作業の効率化や単収増加など種々な目標を達成するための手段が必ずしも相互に補完せず、むしろ、矛盾する場合が多い。そのため、目標のウエイト付けや調整など、目標管理にかかわる管理領域が形成される。

3 大規模水田作経営における経営管理の実態

以上、今日の大規模水田作経営において発生せざるを得ない新たな経営管理領域の形成要因を指摘した。そこで、次に、大規模水田作経営の具体的事例をもとに経営管理の実態を検討する。事例とした経営は岩手県和賀町にあり、経営概況は労働力夫婦2人、水稻作付面積709a(昭和60年。それ以降は表1参照)、複合作物は小麦、枝豆、ピーマン、根ミツバである。

ここでは、品種選択・配置と団地別移植作業順序に限定して、経営管理の各場面における具体的な意思決定の状況を明らかにする。

(1) 品種選択・配置

品種構成の決定においては、①粗収益の増大、②作業適期幅の延長、③冷害などによる被害の集中化の回避等を目標におき、適正作業期間内で作業を終了できるような早生・晩生品種割合を決定する、冷害に対する危険分散を図るため多品種化し耐冷性の強い品種を選択する、などを判断基

表1 団地の特色と団地別移植作業順序

団地	自宅迄 の距離	水管理 施 設	土 壌	圃 場 の 形状・特色	年次	面積 (a)	品 種	移 植 作 業 日 (5 月)															
								7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
鉄 道 北	800 m	バルブ	良	長 方 形	60	361	トヨ, ササ, ヒメ			○	○	○	○										
					61	361	トヨ, ササ, ヒメ			○	○	○	○										
					62	394	トヨ, ササ, ヒメ	○	○	○	○	○											
					63	364	トヨ, ササ, アヒ ヒメ	○	○	○	○	○											
家 の 前	10 ~ 50 m	バルブ	良	長 方 形	60	66	アユ, アヒ, トヨ					○											
					61	66	アヒ, トヨ					○											
					62	66	アヒ					○											
					63	30	アタ					○											
道 路	200 m	水 路	長 方 形 小 区 画	60	17	アユ							○										
				61	17	アユ					○												
				62	17	アヒ											○						
				63	17	アヒ												○					
後 藤 野	1500 m	水 路	長 方 形	60	90	トヨ											○	○	○				
				61	200	アヒ, トヨ										○	○	○					
				62	170	アヒ, トヨ									○	○	○						
				63	170	ヒメ, トヨ										○	○						
ポ ン プ	400 m	ポンプ	不 定 形	60	56	トヨ											○	○					
				61	56	トヨ														○			
				62	56	トヨ													○				
				63	56	トヨ														○			
下 田	300 m	水 路	良	不 定 形 小 区 画	60	21	アヒ											○					
					61	21	アヒ						○										
					62	21	コネ						○										
					63	21	アタ						○										
笹 間 田	5000 m	バルブ	不 良	長 方 形 病 気 多	60	113	アヒ													○	○		
					61																		
					62																		
					63																		
羽 場 田	300 m	水 路	不 良	不 定 形 病 気 多	60	15	アユ															○	
					61	15	アユ																
					62	15	アヒ														○	○	
					63	15	アヒ														○	○	
田 作 業 受 託 植					60	217	ササ, コネ, トヨ			○	○	○	○	○									
					61	197	ササ, コネ, トヨ			○	○	○	○	○	○								
					62	220	ササ, コネ, トヨ		○	○	○	○	○	○	○								
					63	220	コネ, トヨ			○	○	○	○	○	○					○			

注. 品種は次のように略記した。早生品種：アキヒカリ→アヒ, アキユタカ→アユ, ヒメノモチ→ヒメ
中生品種：アキタコマチ→アタ, 晩生品種：ササニシキ→ササ, コガネヒカリ→コネ, トヨニシキ→トヨ

準として意思決定を行っている。ここでの品種選択の特徴を整理すれば、相互に矛盾する目標の調整を行っていることや収穫作業の労働ピーク分散など秋作業までも含めた全行程の作業遂行に対する配慮を品種選択の段階で行っていることが挙げられる。

圃場別品種配置に対しては、作業の効率化と品種特性に応じた栽培管理を行うことを目標に、表1からもわかるように、①遠隔地及び不定型圃場には作業受託地と競合しない早生品種を配置する、②自宅に近い優良地に管理に手間のかかる良食味品種を配置する、③団地ごとに品種を統一し作業の効率化を図る、等を判断基準におき意思決定を行っている。この品種配置の特徴を要約すれば、位置、豊度等圃場条件を考慮し、作業の効率化を考えつつ、良食味品種の単収を低下させない配慮を行っていることが指摘できる。

(2) 団地別移植作業順序の決定

田植期間における団地別移植作業順序の決定の際の判断基準は、表1に示されるように、①作業受託地の移植は周辺地域の移植盛期に行う、②水管理の容易な圃場及び自宅

に近い圃場から作業を開始するというものであり、委託者への配慮が常に図られていることと移植のみでなくその後の水管理や除草剤散布、活着肥施肥作業の効率化に対する考慮がなされていることが特徴的である。

4 お わ り に

今日の大規模水田作経営においては、従来の家族労作経営にない新たな経営管理領域が形成されて来っており、それに適切に対処するためには高度な経営管理能力が不可欠となっている。また、大規模化に伴い、経営管理は非常に多様化、複雑化してきている。農家は種々様々な要素を総合的に判断して意思決定を行っているのであり、単一の指標で単純に判断しているわけではない。したがって、農家のこのような意思決定の状況を考慮すれば、一つの最適解ではなく、目標達成に向けた意思決定過程における段階段階での望ましい意思決定方法の提示と、その支援方法の確立を図ることが、経営管理研究の今後の課題である。